

# 経営比較分析表

佐賀県 佐賀東部水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	用水供給事業	B
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	65.78	90.44	0

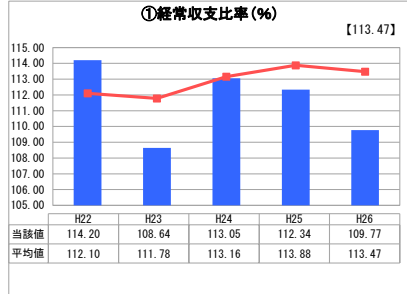
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
304,230	348.06	874.07

**グラフ凡例**

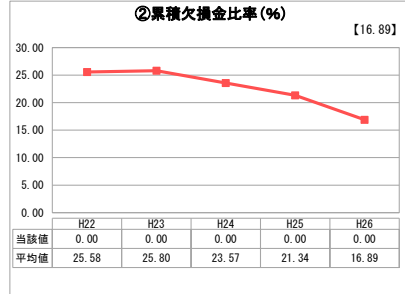
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 平成26年度全国平均

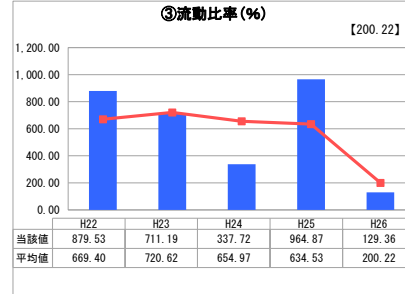
## 1. 経営の健全性・効率性



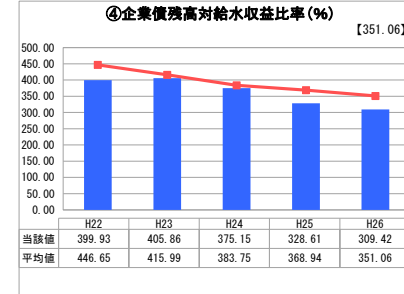
「経常損益」



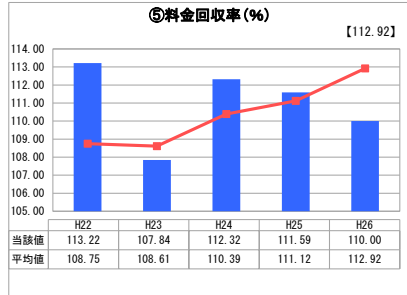
「累積欠損」



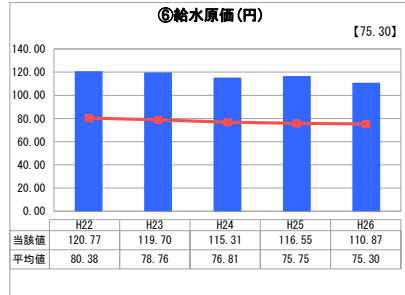
「支払能力」



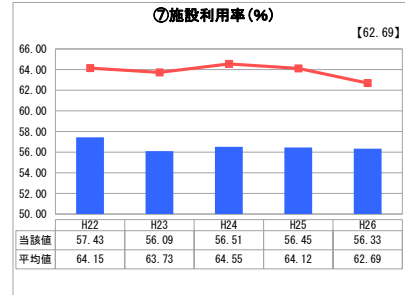
「債務残高」



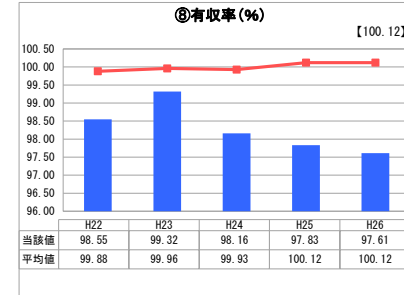
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

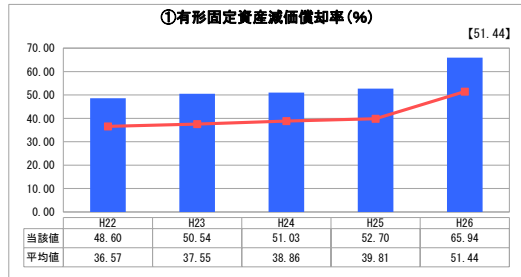


「施設の効率性」

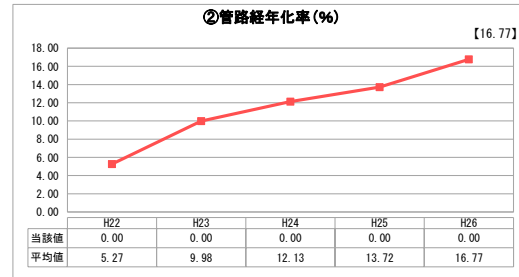


「供給した配水量の効率性」

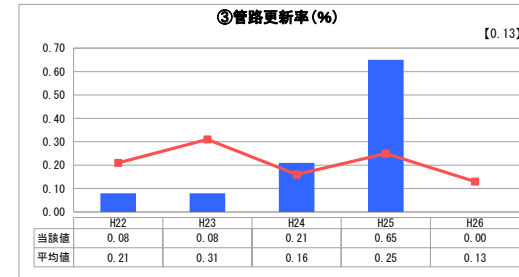
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率及び料金回収率のいずれもここ数年100%を超えており、収支は黒字であることから給水収支で経営に必要な経費がしっかり賄われている状況である。流動比率は、必要とされている100%を常に上回っており支払能力に問題はなく、累積欠損金も計上しておらず、企業債残高対給水収支比率については、高い比率であるものの、全国平均より低く、年々減少傾向にあるため、今のところ健全である。

施設利用率及び有収率についていずれも全国平均を下回っており、給水原価においても全国平均を大きく上回っている。給水原価が高いことについては、資本費が原価の2/3を占めており、減価償却費は全国平均の倍近くになっていることが原因としてあげられる。また、給水人口密度が低いこともあり、効率性は良いといえない。

### 2. 老朽化の状況について

管路経年化率においては、経年化が進んでいないことから、管路については早急に更新が必要な状況にあるわけではないが、有形固定資産減価償却率は、65%を超え全国平均より高い比率であることから他事業体より施設の老朽化が進んでおり、浄水関連施設等の更新期を迎えている。

### 全体総括

当企業団の用水供給事業は、黒字収支であり累積欠損金も計上していないため、今のところ健全な経営状況にある。しかしながら、効率性は良いとはいえず、さらには将来の人口減少による収益減が見込まれることから、給水原価を抑えるためにも老朽化し更新期を迎える浄水関連施設及び管路のダウンサイジング、スペックダウンを考慮した更新計画を策定する必要がある。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。